

魔性の恋人

- 1 「何処へ行っていたの　いとしい恋人
七年以上という間」
「昔おまえがおれにくれた
誓いがほしくて帰ってきた」
- 2 「誓いのことはいわないで
けんかのもとになるだけよ
誓いのことはいわないで
わたしはもう人妻だもの」
- 3 男はくるりと背を向けました
涙が流れて眼がみえません
「おまえのことがなかったら
二度とこの地を踏まなかったのに
- 4 「王の娘と添えたのに
海の向うの遠い国で
王の娘と添えたのに
おまえのことがなかったら」
- 5 「あなたが王の娘と添うていたら
それはあなたが悪いのです
あなたは王の娘と添えたでしょう
わたしのことなど忘れていたから
- 6 「わたしが夫を捨てて
二人の子供も捨てたなら
一体どこへ連れて行ってくれるのです
あなたについて行くならば」
- 7 「七隻の船を浮かばせて
八隻目の船に乗ってやってきた
いかつい水夫たちが二十四人
みんなそれぞれ鳴りもの入りで」
- 8 女は子供を抱きあげて
頬と顎に接吻をしました
「二人の坊や　お別れよ

おまえたちにはもう会えないの」

9 女は船に乗り込みました

水夫は一人もおりません

けれども帆は琥珀織こはくおり

マストは金箔きんぱくにおおわれていました

10 一リーグ 一リーグ

また一リーグ 三リーグも行かぬうち

男の顔はかきくもり

眼は陰けわしくなりました

11 一リーグ 一リーグ

また一リーグ 三リーグも行かぬうち

男の割れた足の爪がみえました

女はひどく泣きました

12 「おお 泣くのはよしな

泣くことはならぬ

イタリア海岸に咲いている

百合をおまえに見せてやる」

13 「ああ あちらに見えるきれいなお山は何のお山

お天道様が笑っているお山」

「おお あちらに見えるのは天国の山

おまえが決して行けないところ」

14 「ああ あちらに見えるのは何のお山

霜と雪とで物凄すごい」

「おお あちらに見えるのは地獄の山

おまえとおれが行くところ」

15 男はトップマストを手でうちくだけき

前のマストを膝でうち

豪華ごうかな船を真二つ

海の底へ沈めました